

要旨

近年の都市化、少子高齢化、情報化、国際化などに伴う社会環境や生活環境の急激な変化が日本社会に多様な価値観をもたらし、子どもの心身の健康問題を複雑化させている。このような社会背景のなか、高校生では、体調不良で保健室に繰り返し来室する生徒が問題となっている。この高校生の体調不良の背後には、成長や発達過程で高校生にふさわしい能力やスキル、資質の獲得に問題があるのではないかと考えた。高校生の育ちの状態、すなわち周りの世界（家庭、学校、地域社会、マスコミ等）との関係から受け取る好ましい経験により獲得していく資産や、肯定的な価値観の獲得や学習への強い参加や社会的な能力の形成など好ましい内部的な成長・発達により獲得していく資産（発達資産）が、高校生の健康度と関連するのではないかと考えた。

そこで、本研究では、まず高校生の発達資産を測定し、性差、学年差を明らかにすること、次いで成育過程における体験や環境を測定し発達資産との関連を検討すること、さらに発達資産と健康指標との関係を検討することの3点を目的とし、宮城県内の高等学校2校に在籍する生徒537人を対象として調査・研究を行った。

まず、発達資産の性差を検討した結果、発達資産の得点は、多くのカテゴリーで女子よりも男子が高く、有意な差が認められた。また、内的資産の「社会的能力」を除く全てのカテゴリーにおいて学年間で有意な差が認められた。さらに、発達資産と成育状況の関連では、小学校時代の成育環境に関する尺度の一部と、中学校時代の成育環境及び個人体験に関する尺度の全てと発達資産の得点に有意な関連がみられた。最後に、健康関連尺度との関連では、属性や成育環境をコントロールしたうえでも、発達資産の下位カテゴリーの得点の一部と関連が認められた。

以上より、高校生の健康は発達資産と密接な関係があり、発達資産は小学校ならびに中学校の成育環境や体験と関係があることが明らかになった。

したがって、生徒の育つ環境が厳しいとしても、養護教諭や教員は発達資産の視点を持って生徒の成長を促し、指導と支援を工夫していくことができれば、発達資産を高めることができ、生徒の健康度が高まり、将来の健康にも繋がると考えられる。

keyword : 発達資産 心身の健康 高校生